

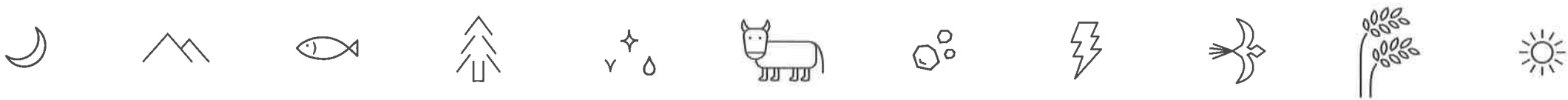
焚き火を囲んで、時代をつなぐ。



暮らしの骨格

にいがた船作文化ドキュメンタリー&シンポジウム

2015.6.28(日) 13:00~16:00 於旧庄屋佐藤家



暮らしの骨格

にいがた稲作文化ドキュメンタリー&シンポジウム

いろいろ座談会 vol.02 『暮らしの骨格』 2015年6月28(日)13:00~16:00

会場：福井旧庄屋佐藤家(新潟市西蒲区福井2908)
参加費：¥500(資料代込)
定員：100名 当日先着順(予約のご連絡でお席を確保できます)
お問合せ・ご予約：080-4051-1211、info@bricole.jp 榎沢(ぐみざわ)まで

※6/28当日は会場近くの、矢垂川付近「福井ほたる祭り」や岩室温泉「冬妻ほたる祭り」が開催されています。
座談会終了後、ぜひあわせてご覧ください。



にいがた稲作文化ドキュメンタリー&シンポジウム「暮らしの骨格」は、「水と土の芸術祭2015」市民プロジェクトの認定事業です。この事業では、新潟市西区在住の86歳の藁細工職人・山際辰夫さんの稲作を追ったドキュメンタリー映像制作や、シンポジウム(いろいろ座談会)の開催、藁細工ワークショップ(土着ワークショップ)を行っていきます。事業の経過は、HPやfacebook、twitterにて随時お知らせします。

http://bricole.jp/irori/ Twitter: @tw_irori
企画：ブリコール(榎沢和典・榎沢厚子)
協力：NPO法人福井旧庄屋佐藤家保存会、NPO法人いわむろや
ロゴ：荒木康夫(ノック) スチール写真：Tango



山、森、河、林、田と畑。浜と海。
天と地の恵みを暮らしの中で実感できていたとき
人と自然の間には神が居ました。

裏山や川辺、浜辺で薪(たきぎ)を得、燃料としていた時代、
囲炉裏の火はそのままそこに生きるひとの暮らし全体の「魂(ひ)」でもありました。
かまどはその土地の恵みを受け取る火のうつわであり、
神棚にも折々の火が灯され祭られていました。
風雨と向き合う生活には土地に根ざした物語がありました。

しかしながら、いまや多くの家にあった「火」は消え、囲炉裏もたたまれました。
火の在り処は火力発電所の中、自動車の中、ガス管の中、
より大きなものと繋がるための仕組みの中に移り
家族や村という顔の見える範囲でまとまっていた人の生活は
より広く大きなものへ接続されるようになり、
茶呑み話にテレビやインターネットが介在するようになりました。

稲作をはじめとした農業も資本と効率を求めて機械化され
同時に生活とともにあった手業の技術もだんだんと息をひそめていきます。
わたしたちの「暮らし」の骨格は数十年の間にも大きく様変わりしました。
皆に望まれて変わったのか?
知らぬ間に変わってしまったのか?
かつての土地と対話し天を仰ぐような暮らしを知る人は少なくなり
若い世代はそのような暮らし方があったことさえ知りません。
わたしたちはいま、過去から何を引き継ぎ、何を活かしていけば良いのでしょうか?
そこにある土地と深く関わる生活を目の当たりにして来た方々を招き
会場参加者と共に考える座談の場が出来ればと思います。

結城登美雄 ゆうき とみお 民俗研究家



1945年旧満州(中国東北部)生まれ。仙台で広告会社経営に携わった後、15年にわたり東北の農山漁村をフィールドワークしながら、住民主体の地域づくりの手法「地元学」を提唱。宮城県宮崎町(現加美町)の「食の文化祭」アドバイザー、旧鳴子町「鳴子の米プロジェクト」総合プロデューサーをつとめた。現在活動を全国に広げ、北と南、海と里の産物の物々交換や米農家支援のための縁故生産方式の実践など、人と人、地域と地域を結ぶ提案を行っている。著書に『山に暮らす 海に生きる』(無明舎出版)、『地元学からの出発』(農文協)など。

山上力 やまがみ ちから 新潟市西蒲区夏井の稲作農家



1953年西蒲区(旧岩室村)夏井生まれ。美しい日本のむら景観百選の一つ、「夏井のはさ木」で知られる故郷の夏井地区で、地域ぐるみで「はさ木」の景観を守りながら、家業の稲作を続ける。30代で本格的に稲作を始め、現在、自然農に近い形で米づくり、畑作を行いながら、自身の田んぼ開放を通じ、地元岩室小学校の5・6年生に向けた稲作体験の場づくりなどにも精力的に取り組む。

宮崎清 みやざき きよし 千葉大学名誉教授 アジアデザイン文化学会総会長



1943年甲府市生まれ。1965年千葉大学工業意匠学科卒、同大学院修了。工学博士(東京大学)。千葉大学教授、工学部長、同大学理事・副学長、放送大学特任教授などを歴任。現在うらす市民大学学長。生活用具の有り様の研究、フィールドサーベイを通じ、地域社会の生活技術的資源に基づく内発的地域開発計画や方法論の検討、伝統的工芸品の意匠解析などを行う。中国・台湾・韓国と関わりが深く、生活文化、工芸、デザイン、地域振興など幅広い分野で研究・指導を行ってきた。著書に『藁(わら)I・II』『図説 藁の文化』(ともに法政大学出版)など。

斉藤文夫 さいとう ふみお 郷土研究家、写真家



旧庄屋佐藤家囲炉裏の火焚き爺さん
1933年新潟市西蒲区(旧巻町)福井生まれ。NPO福井旧庄屋佐藤家保存会理事。元巻郷土資料館長の石山与五郎門下で写真家・熊谷元一氏との出会いを機に、郷土の風景、暮らしなどドキュメント志向の写真を撮り続ける。「のぞきからくり」ほか、地域資源の発掘や文化・研究活動に尽力。著書に『角海浜物語-消えた村の記録』(和納の窓叢書)、『蒲原 昭和の記憶-カメラが捉えた昭和の残像-』など。

五十嵐稔 いからし みのる 新潟県民具学会会長



1931年三条市生まれ、同市在住。県立三条実業高等学校卒、三条市役所に勤務し、退職時は三条市立図書館長。現在、日本民具学会評議員、古々路(こじ)の会代表。『三条市史』『新津市史』ほか多数の新潟県内の市町村史の調査・執筆を手掛ける。著書に『民具 探訪見聞記』(東北出版企画)など。『越後の「ワラ民具」生活文化誌』を近刊予定。